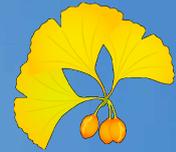


学校経営



ARIURA GRAND DESIGN



秋田わか杉 七つの「はぐくみ」

- 一 早寝 早起 朝ごはん
生活リズムは全ての基本
- 二 元氣なあいさつ 明るい返事
規則 約束 守るわか杉
- 三 読んで 話して 書いて 高める
「問い」を發する思考力
- 四 問題解決 子どもが主体
授業の続きは家庭で学習
- 五 職場体験 インターンシップ
地域で育む子どものキャリア
- 六 学校や地域の話題で語り合い
将来の夢 家族でえがく
- 七 ふるさとを支える自覚と志
みんなで作る未来の秋田

※本県の未来を担う子どもたちを「わか杉」と呼んでいます。

TEAM ARIURA



未来大館市民の育成

学校教育目標

大館を愛し、次代を担う、
“気付き、考え、行動できる” 子どもの育成

1 学ぶ力

- (1) 自分の「気付き」を大切に、「なぜ」「どうして」「知りたい」「できるようにになりたい」という意欲につなげる力

2 パートナー力

- (1) 仲間と関わり、つながる力。つまり、相手の立場で考えることができる共感力と協働力
- (2) 多様性への理解力

有浦っ子プライド

・物事を「自分ごと」として捉える

3 自制力

- (1) 目標に向かって諦めず、努力し、やり抜く力
- (2) 誘惑に負けず、自分をコントロールする力
- (3) レジリエンス
・回復力・適応力

4 コミュニケーション力

- (1) 「聞く力」を基本にして、友達に自分の考えを正確に伝える力
・根拠に基づいて自分の考えを発信できる

家庭

学校

地域

子どもの集団づくり

職員集団づくり

大館を愛し、次代を担う、
“気付き、考え、行動できる” 子どもの育成



1年間を通しての **3つの戦略**

発展・
継承
期

深化そして進化

- ・自分の成長を実感するとともに、次のステージへの備えをする。

充
実
期

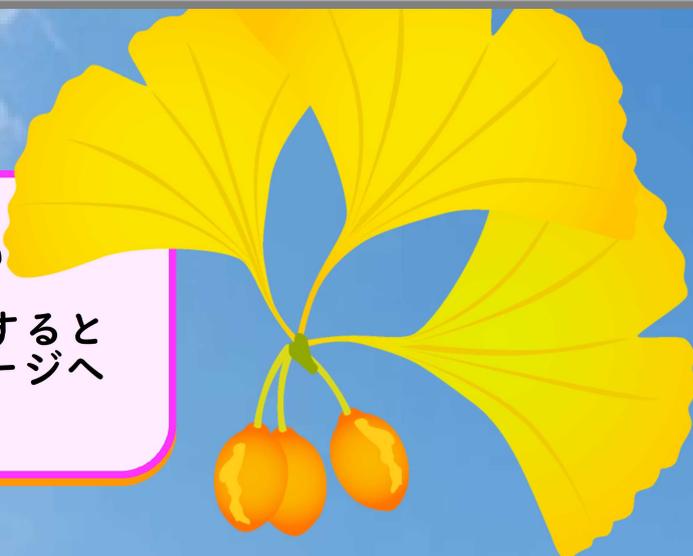
広がりそして深化

- ・「黎明期の学び」の上に、仲間との学びを通して自分の考えを広げる。
- ・日々の学びの成果を、他者（外部等）の評価をもとに振り返り、更なる学びにつなげる。

黎
明
期

年間の土台づくり

- ・学びを自分のこととして捉える視点、考える態度の育成。



大館市の教育の方針

児童の実態

自立の気概と能力を備え、ふるさとの未来を切り拓く人財の育成

〈願い〉
保護者・地域

I 本校の教育目標

大館を愛し、次代を担う“気付き、考え、行動できる”子どもの育成

目指す児童像（校訓）

- 思いやりの心を持ち、仲よく助け合う子ども
〈やさしさ〉
- 粘り強く考え、共感的・協働的に学び合い、課題を解決する子ども
〈かしこさ〉
- 自分のよさや可能性に気づく子ども
〈ゆめいっぱい〉
- 生活のリズムを整え、進んで行動し、体を鍛え健康に生きる子ども
〈心も体も たくましく〉

目指す教師像

- 教育目標の具現化に向け、自らの気づきを生かし積極的に経営に参画する教師
- 子どもの心に寄り添い、温かく支援する教師
- 保護者や地域の思いを受け止め、真摯に繋がる教師
- 他者理解を心がけ、共感力・協働力を発揮できる教師
- 自己の経験や前例に拘らず、学び続ける教師

学校教育目標実現の Key Word

見通しと段取り(戦略)、その先の笑顔へ

III 経営戦略

育成を目指す資質・能力

学ぶ力

・ 知的好奇心を持ち、興味関心を広げ、意欲的に学ぶ力。

自制力

・ やり抜き、努力できる力。我慢できる力。レジリエンス。

有浦っ子
プライド

・ 仲間と関わり、つながる力。共感的協働力。 **パートナー力**

・ 聞く力を大切にして、他者に正確に伝える力。 **コミュニケーション力**

重点事項

1 一人一人に寄り添い、組織力を発揮し、共感的協働的な「職員集団づくり」

- (1) 学級の「壁」にとらわれない指導体制（チーム担任制的関わり）
- (2) 前例にとらわれず、教師自らの気付きと発想の実践化



2 主体的に学び、共感的に学び合う「子どもの集団づくり」

- (1) 個別最適な学びを生かした、子どもの視点からの授業づくり〈学ぶ力の育成・ICT活用〉
- (2) 個々の資質・能力を生かしてつながり合う、教育パートナー化の推進〈パートナー力の育成〉
- (3) じっくり考え、自己決定を生かした根気強い取組の推進〈自分力の育成〉
- (4) その時、その場で考え、正確に発信する場面の設定〈コミュニケーション力の育成〉

3 コミュニティ・スクールの機能を、学校の基礎体力向上に活かす

III 展開

企画・調整部

〈教務部・学年主任・研究主任・生徒指導主事〉

児童の実態、保護者・地域とのつながりに着目した教育活動の展開

〈学習指導部〉

・ 主体的な子どもの学びと、共感的協働的な集団での学びへの指導

〈保健体育部〉

・ 心身ともに、元気でたくましく過ごすための指導

〈学年部〉

学年担任的指導

〈特別活動・生徒指導部〉

・ 集団の中で個が育ち、個の成長が集団を発展させる指導

〈ふるさとキャリア推進(企画・調整部)〉

・ 本校の立地条件を生かしたふるさとキャリア教育の推進

小学生メディアコントロール成功の鍵は、



家 族

家族にご協力いただくことで、効果が大きくなります。今年度もどうぞ協力よろしくお願い致します

メディア使用豆知識 (R4 梅内先生の講演会より内容抜粋)

睡眠

- 小学生には成長・心身の発達のために、

睡眠時間の確保が必要

推奨睡眠時間:小学生 9~11時間
7時間未満は推奨されない。

- 就寝30分前から1時間前にメディアを止めるといい。(夜型化の促進や不眠の防止)

R5 メディアコントロール育成のための取組 実施予定

- 4/15 3~6年 メディア講話
- 幼保小連携 おたより発行
- 小中合同啓発ちらし配り
- 啓発動画放映
- 5月・9月・1月 メディアコントロール週間
(9月は大館市小中合同一斉メディアコントロール週間)

依存

- スマートフォンは最強の依存物

- ネット依存の進行過程

第一段階 正常な使用

(趣味レベル:約束の時間になると止められたり、宿題やお手伝いなどやるべきことをやってからゲームをするなどが出来る。)

第二段階 グレーゾーン(習慣レベル:暇さえあればゲームをしている、時々、約束した時間よりゲームが長引くことがあるが、日常生活にほとんど支障が出ていない状態。)

第三段階 依存症(病気のレベル:約束の時間を超過していつまでもゲームをやっている、勉強も食事もそっこのけてゲームをやっている、注意すると逆ギレする、ネットにつなげられないとイライラする、成績が落ち、学校を休むことが多くなるなど。)

※ 第二段階のグレーゾーンにいる子どもには、第一段階に戻って欲しい。
第三段階には行かせない。